

年 組 名前 :

■1000年の伝統

市川三郷町市川大門には、平安時代から紙すきが行われた記録が残るよ。卒業証書に手すき和紙を使う学校もあるね。

武田信玄の祖先で、甲斐源氏の基礎をつくったとされる源義清(1075~1149年)がこの地に館を構えた際、紙すきの

技術を持った「甚左衛門」を京都から連れて来て、優れた技術を伝えたといわれているんだ。

できあがった和紙は「美人の素肌のように美しい」という例えで「肌吉」と呼ばれていたんだ。武田家や徳川家の御用紙に使われた和紙は、技術革新やデザイン、アイデアが加えられた現代も、さまざまな商品に使われているよ。



和紙をすくい上げる児童
＝市川三郷町市川大門（1月26日）

(2022年2月3日付 山梨日日新聞 週刊こぴっと6面)

問1

市川大門町の紙すき(手すき和紙作り)は、①時代に、②から職人を迎えて伝えられたとされ、最近、③に使う学校もあります。①～③に入る言葉は何ですか。

- ① 「時代」 ② 「 」 ③ 「 」

問2

市川大門町市川大門の手すき和紙とともに、有名な山梨県内の和紙産地はどこですか。正しいものに○を付けてください。

- 「 」 甲州市松里地区 「 」 富士河口湖町大石地区 「 」 身延町西嶋地区

問3

県内の伝統工芸について調べ、手すき和紙以外に5つ挙げてください。

-
-
-